

## 1. 調査目的等

中学校全学年の生徒の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善及び進路指導に役立てる。

## 2. 学校ごとの指標

標準偏差値において、県の標準偏差値を上回る

## 3. 指標にむけての取組

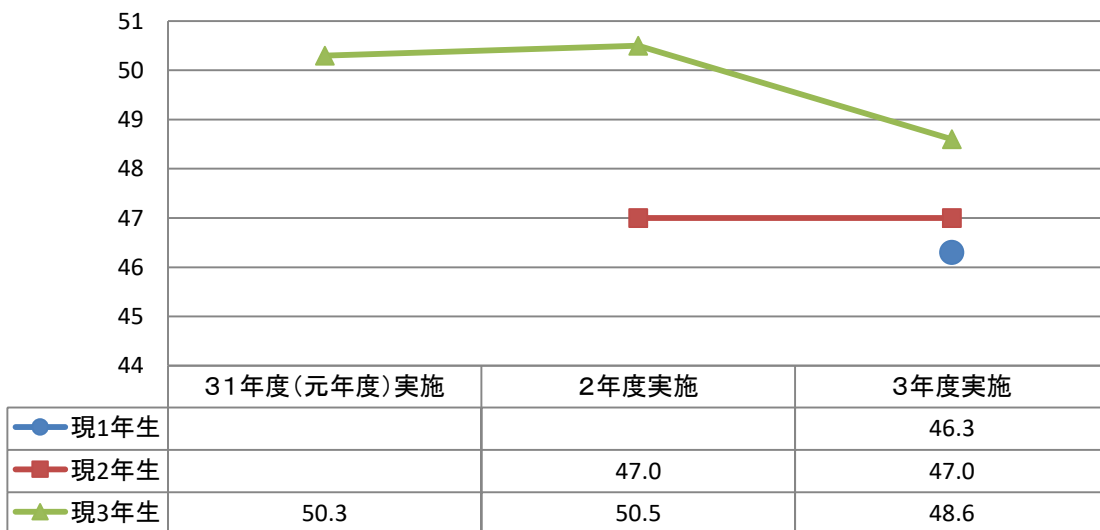
- 基礎・基本の定着
  - ・一単位時間の中で、学習内容の定着を図るミニテストを実施する
  - ・系統的な朝学習の実施(基礎・基本の定着を図る問題をスモールステップで実施)
- 授業改善と家庭学習の質と量の向上
  - ・授業と自学ノートの連動(1日の学習内容をまとめる)
  - ・個に応じた週末課題の提示と振り返り
- 定期考査にB問題(活用問題)を全教科に取り入れ、それに対応した授業づくりを協議する教科部会の実施
- 各教科の領域別の得点率やC・D層の割合などの細かなデータ分析を利用した課題の把握や系統性のある改善策を立てて、実行する

## 4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	29年度	30年度	31年度 (元年度)	2年度	3年度
本校(A)	45.3	48.5	49.6	49.2	47.3
嘉麻市(B)	47.9	49.3	48.8	48.6	47.1
(A) - (B)	-2.6	-0.8	0.8	0.6	0.2
標準偏差値との差 (A) - (50)	-4.7	-1.5	-0.4	-0.8	-2.7

### 各学年の推移



## 5. 各学校における分析

学力分布表の5段階評価で、「1」、「2」の割合が、1年生48%、2年生48%、3年生42%と半数近くを占めていた。各教科の授業において、学習内容の定着を図るミニテストや自学ノートの取組、計画的な朝学習や個に応じた週末課題の実施など、継続的に行っていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のためペアやグループでの教え合い活動が制限されたことも要因として考えられる。また、1年間で学習する内容を10か月で学んだために補充的な学習の減少も一つの要因と考える。

しかし、各教科で中心的に取り組む単元や領域の部分については、県平均を超える教科もあった。コロナ禍の中でも、単元や題材のまとまりで小テスト等を用いて、PDCAサイクルを実施した教科は高い数値を示している傾向があった。

## 6. 各学校における今後の取組

### ○基礎・基本の定着

・単元(題材)の中で、学習内容の定着を図る単元テストを計画的に実施する(定着していない部分をすぐに補充する)

・系統的な朝学習の実施(基礎・基本の定着を図る問題をスモールステップで実施)

### ○授業改善と家庭学習の質と量の向上

・授業と自学ノートの連動(1日の学習内容をまとめる ⇒ 自分の弱点を克服するための学習)

・個に応じた週末課題の提示と振り返り

・教師用授業チェック表を活用し、教科部会で検証を行い、実態や改善策を共有して実践する

### ○定期考査にB問題(活用問題)を全教科に取り入れ、それに対応した授業づくりを協議する教科部会の実施

○各教科の領域別の得点率やC・D層の割合などの細かなデータ分析を利用した課題の把握や系統性のある改善策を立てて、実行する

○稲築中学校校区としての取組の推進(「授業の約束」の徹底や小中学力向上コーディネーターの定期的な会議の設定)

## 7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「GoTo授業づくりチェック20」・「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。

◆嘉麻市学力向上推進員会に基づく学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組を提示したり各学校の取組のよさを交流する場を設定する。